



森と暮らしをつなぐリレー

# 木に関わる仕事

森の恵みを暮らしに届ける、さまざまな仕事。

木を植え、育て、伐る林業はもちろん、

木製品の製造・販売、樹種に応じた商品開発など、

さまざまな分野の専門家たちが知恵と技を持ち寄り、

木に関わる大きな産業を支えています。

今号では、さまざまな職種の個人にスポットを当て、

それぞれの立場から仕事への思いを語っていただきます。



毎日の朝礼では、その日の作業の確認とともに、安全作業の注意を怠らない。

「林業」  
林業のサイクルを  
つなげるために、今は我々が  
次の世代に残す番です。

北村林業(株) 森林事業部長  
高峯勝美さん(36歳)

父親が働く林業に20代半ばで転職した高峯さん。森に入り木を育て伐るといふ、木に関わる仕事の最も上流にあたる部分を担っています。

「林業はとてもサイクルの長い仕事です。今の林業は、昔に木を植えてくれた人が存在して初めて成り立つもの。諸先輩方の苦労のおかげなんです」と高



峯さん。「次は我々が残す番。そのために、日々山の仕事に精を出しています」と話します。

しかしながら、林業のこれまでの歴史は山あり谷あり。高度経済成長期のお正月には、紅白の横断幕で覆った原木の初荷が町内を練り回るほど活気にあふれ、逆に平成のリーマンショックの際は昇給が一時停止するほど厳しかったといえます。

現在、木質バイオマス発電、セルロースナノファイバーなど新たな木材需要の期待もあり、再生可能な地域資源を扱う仕事として大いに注目されている林業。治水や二酸化炭素の吸収など重要な機能を持つ森林はいわば公共財であり、自然環境保全には林業のサイクルをきちんとまわせるしくみが不可欠です。

「ときに自然の力強さに翻弄されながらも、四季折々の顔を持つ素晴らしい環境の中で、健康的に仕事ができることがうれしいですね」と高峯さん。「この環境を次世代につなげていくことが私の目標です」と、力強く語ってくれました。

「製材生産販売」  
木材では資源大国の  
日本で、林業業には  
大きな可能性があります。

丸善木材(株) 事業推進部長  
石川加太さん(46歳)

海外駐在もこなす転勤族  
だった石川さんが、定住地と地



カラマツ乾燥材(無垢材)を構造材として使った住宅。

域貢献の実感を求めて丸善木材へ転職したのは5年前のこと。現在社内では、素材の原木調達や社有林管理などを担当しています。

「資源のない輸入大国といわれる日本も、木材に関しては立派な資源国。これに日本の技術力が加わり、林業はさらに発展する可能性を秘めています」と石川さん。木製品を多用する設計が発表された東京オリンピック・メインスタジアムを含め、その他関連施設でも

道産木製品の採用を目指し、PR活動にも力を入れています。

道産材の積極活用で、同社は優れた実績を上げています。カラマツ乾燥製材・集成材を用いた建築物施工は、大型公共施設やログハウスを含め600棟以上。カラマツやトドマツに防腐・防蟻処理を施した独自の木質舗装「モクレンガパネル」は、耐久性の高さが評価されて各所で導入が進み、屋外用木製品提案会「ウッドチャレンジ2015」では優良提案作品に



厚岸郡浜中町の木材コンビナート。丸善木材を中心に3株式会社3協同組合が集結。



「ウッドチャレンジ2015」で優良提案作品にも選ばれた「モクレンガパネル」。エクステリアや舗道に使われている。



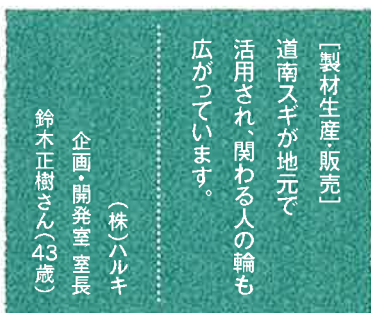
カラマツ大断面集成材を使用した、平成7年施工の3階建て住宅。

選ばれました。

同社の強みは、素材生産から製品施工まですべてをグループ企業内で行える「木の6次産業化」。「すべての過程を身近な業務として実感できるのが面白いんです」と石川さん。輸入木材との価格競争では、素材生産の川上側と、木材加工の川下側の協力が不可欠。「貫工程から得た石川さんの知見は、木材産業全体の活発化に生かされることでしょう。」



「北海道に住みたかったから」と、ハルキへの転職理由を話す鈴木さん。「たまたま就いた仕事でしたが、今では天職だと思っています」と目を輝かせま



「製材生産販売」  
道南スギが地元で  
活用され、関わる人の輪も  
広がっています。

(株)ハルキ  
企画・開発室 室長  
鈴木正樹さん(43歳)



函館アリーナの内装には、準不燃処理されたハルキの内装材、「道南杉ハル壁」が使われている。



キッズデザイン賞を受賞し、函館空港に設置されている「Hako Dake Hiroba」。

す。同社では、木に関わる新商品の企画・開発や広報などを担当。道内のスギの99%以上が集中する渡島・檜山地方の企業として、「道南特有の道南スギには特に思い入れが強いです」と語ります。

道南スギの大半は丸太のまま道外・海外へ出荷されているため、同社では地産地消の拡大を目指して、内外装建材「道南杉ハル壁」などさまざまな製品を開発。品質が評価され、函館アリーナや新幹線駅舎など大規模な公共施設でも採用されるようになりました。道南スギを用いた住宅施工も増え、施主

さんから好評を得ています。

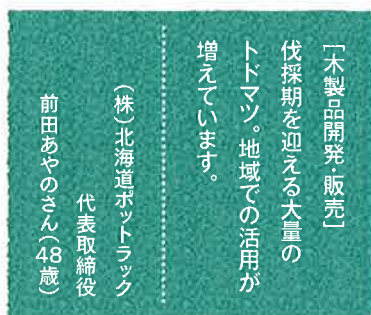
第9回キッズデザイン賞(平成27年)をはじめ各賞を受賞した函館空港の遊具施設「Hako Dake Hiroba(ハコダケ広場)」では、木育の考え方を取り入れました。「木育活動を通してこれまで出会えない人とつながり、それが異業種連携プロジェクトや仕事へと発展しています」と鈴木さん。道南スギを紹介、スギの再評価に取り組み全国有志ともつながりました。

木に関する仕事については「山で働く人が絶対的に足りない!」と訴える鈴木さん。今もっともやりがいを感じているとい

インテリアショップを運営する前田さんが、道産材の製品に着目したきっかけは置戸町のオケクラフトでした。「開店当初から扱い、個人的にもヘビータンナーです。素朴なのに野暮ったくなく、エゾマツを無駄なく使っているのも特徴」と絶賛。商品ラ



ウッドデザイン賞を受賞したトドマツ屋台。屋台の連なりからトドマツ材の美しさを知ってもらデザインが特徴。さまざまなイベントで活用。



「木製品開発販売」  
伐採期を迎える大量の  
トドマツ。地域での活用が  
増えています。

(株)北海道ポットラック  
代表取締役  
前田あやのさん(48歳)

う木育活動が、その状況を変えてくれそうです。



前田さんが運営するインテリアギフトショップ「HOMES」。インテリア雑貨などとともに、トドマツ製品なども扱っている。

インナツプに少しずつ道産材ク  
ラフトが増え、家具、工房とのコ  
ラボで「もりのつみき」というト  
ドマツ材を用いたオリジナル商  
品も開発しました。

森や林業について理解を深め  
いてくなかで、前田さんは有志  
と共に北海道固有のトドマツを  
活用するプロジェクトを旗揚  
げ、「今後大量伐採が予定され  
ているトドマツ。建築家や製材  
所、デザイナーやウェブ制作会  
社など、立場も仕事も違うメン  
バーが集まって、活用法を考え

ています」と前田さん。第1回  
ウッドデザイン賞(平成27年)を  
受賞したトドマツ屋台も、多く  
の人たちの協力で完成しまし  
た。片道1・7kmの屋台が並ぶ  
旭川の食イベント「食べルシエ」  
では、木工のまちらしい木製屋  
台がインパクトある景観を生み  
出しています。

「豊かな森のある北海道でも  
林業は身近ではなく、トドマツ  
のこともよく知られてはいませ  
ん」と前田さん。「当店が大事に  
しているのは店頭での接客。商

品を介しながら多くのお客様  
に、北海道の森や木のことを丁  
寧に説明していきたいです」



「エンドユーザー」  
自然素材のあたたかみが  
魅力。道産材の住まいに  
大満足です。

北海道水産林務部で、道産  
材を使った住宅を推進する業  
務に就く成澤さん。地域で育  
ち加工された木材を使い、地域  
の工務店が建てる——そんな  
家づくりを希望して、木材利  
用ポイントなどの補助制度も  
活用し、「昨年に道産材を積極  
的に用いたマイホームを新築し  
ました。」

「道産トドマツ使用の軸組住  
宅で、断熱材には木質繊維を活  
用。内外装材には道産カバ、道  
南スギなどを使いました」と成  
澤さん。「子どもたちが裸足で  
快適に過ごせるフローリングや、

補助暖房として導入したペレ  
トストーブも温かみがあり気  
に入っています」。

成澤さんの願いは、地域の森  
林から生み出される道産材を、  
暮らしのさまざまな場面で、道  
民があたりまえに使える環  
境の実現です。森林から、加工工  
場、ショップを経て、家庭や施設  
へ。森の恵みを暮らしにつなぐ  
リレーで、バトンを持つ人がどん  
どん増えていけば、成澤さんの  
夢もきつとかなうでしょう。



道南スギを使った(株)ハルキの壁材は、入居後に自ら施工。



道産カバ材のフローリングが敷かれた居間には、ペレットストーブを設置。

#### 北村林業株式会社

浦幌町で昭和32年に創業。高齢化が進む業界で早くから若手育成に注力し、現在では30代の社長を筆頭に、40歳未満の従業員が3分の1以上を占める。  
<http://www.kitamura-ringyou.jp/>

#### 丸善木材株式会社

釧路町で昭和39年に設立。木材の製材生産・販売から環境整備まで木に関する全てを扱う木材総合メーカー。道産材を活用した製品を多数開発。  
<http://www.maruzenmokuzai.com/>

#### 株式会社ハルキ

森町で昭和35年に個人事業として創業。主事業である木材の製材生産・販売の全工程を一貫して行えるのが強み。地域材の道南スギ活用でも活躍。  
<http://www.mori-haruki.co.jp/>

#### 株式会社北海道ポットラック

旭川市で平成17年に個人事業としてスタート。道産材を用いた木製品の販売はもちろん、オリジナル製品の企画から木育活動まで活動の幅は広い。  
<http://www.homes-gift.jp/>